

令和7年度 心の駅下関 地域連携推進会議・構成員事業所訪問 議事録

地域連携推進会議日時：令和7年12月18日（木）10：00～11：30

会議会場	吉母ホーム 2F 相談スペース
参加者	(構成員) 5名 地域関係者 K様・福祉、経営に知見のある人 T様・利用者家族 M様 M様 利用者 K様 (心の駅下関 職員) 3名 管理者 荒川 奈津枝 サービス管理責任者 清末 将斗 世話人 辻原 恵美子 <p style="text-align: right;">計8名</p>

① 参加職員、構成員の紹介・挨拶、本会議の主旨説明

本会議参加者の自己紹介

本会議の主旨説明：心の駅下関の利用者と地域の関係づくり・心の駅下関の事業並びにその利用者に関する理解の促進・心の駅下関のサービスの質と向上と透明性の確保・利用者の権利擁護を目的としていることを伝える。

② 共生の里 法人紹介

管理者より法人経営理念、事業所説明

地域関係者からの質問と回答

・共生の里の訪問看護事業について教えてほしい。地域包括支援センターと関係があるか？

→地域包括支援センターは地域生活をされている高齢者を福祉や医療に繋げる役割があるので、医療に繋げる際に共生の里の訪問看護が地域の皆さんに繋がっていく可能性はあるかと思えます。その際はどうぞよろしくお願いたします。

・夢活動センターの場所はどこにあるのか？

→下関市内に二カ所ありますが、本部的役割をしているのは稗田南町に位置している「夢活動センターporto」になります。

③ 苦情・要望・ヒヤリハット・事故報告説明

心の駅下関での取り組み「共同生活援助（グループホーム）について」「苦情担当が関わった苦情について」「苦情、希望、要望に関して」「事故報告に関して」「ヒヤリハット報告に関して」の説明。

地域関係者からの質問と回答

・「警察に通報するような事例に関して、事故報告書として市役所に提出する」との説明があったが、担当課はどこになるのか。

→下関市の障害分野の担当は「障害者支援課」になります。

心の駅下関全体の事故報告書の報告

利用者家族より質問と回答

・事故報告の種類で「行方不明」と「無断外出」と分かれているが線引きはあるのか？

→種類を細かく分類しているわけではないので事業所毎の報告によって多少異なります。

判断能力があり、自分の意志で断りなく出かける場合には無断外出になるでしょうし、意図せず連絡もつかずどこへ行きいつ帰ってくるかわからない場合には行方不明としている場合が多いです。

福祉、経営に知見のある方より意見と回答

・報告の中で「万引き」についての報告がありましたが、児童の分野では同居している子供同士で万引きをさせるような事案もあります。

→誰かに命令されて万引きをした事案は発生していませんが今後の参考にさせていただきます。

心の駅下関全体のヒヤリハットの報告

利用者家族からの意見と回答

・転倒がヒヤリハット項目に入っているが事故報告としてあげてもいいのでは？

→障害者支援課へ確認した際に警察・救急車が対応した内容に関しては事故報告として提出をお願いしたいとの事でした。そのためそれ以外のものは基本的にヒヤリハットとして事業所内で処理していたのですが、今後の取り扱いに関しては協議させていただきたいと思います。

・ヒヤリハットの改善内容として例えば配薬ミスに関して、複数名の職員が目視で確認して本人に手渡すは「確認していく」等の抽象的な表現ではなく具体的な対処方法を検討していく必要があると思う。

→個人の意識的な内容ではなく職員全体で取り組んで行ける具体的な内容として改善内容を検討していきます。

・なんでもヒヤリハットとしてあげると、改善が必要な内容が埋もれてしまう可能性もあるため、線引きも必要と感じた。

→今後事業所内で取り扱い方法に関して協議いたします。

苦情・希望・要望内容の報告

意見なし

④ 虐待防止委員の取り組み

法人全体で虐待防止委員の活動を行っている。会議だけでなく法人全職員を対象に虐待セルフチェックを実施し虐待に対して振り返る機会を設けている。今年度の現段階で心の駅下関内で虐待事案は発生していないが、利用者が外部の人に対して通報したケースについて報告を行う。

⑤ 構成員の皆様からのその他意見

利用者より

虐待されるのはかわいそうだと思いますね。障害者に言ったって理解できない時もありますからね。

地域関係者より

数年前に心の駅下関入居者が行方不明になって地域も一緒になって探した事があったが、捜索時の反省を踏ま

え、その後の対策の時にすぐに次回発生した際に対応できるように緊急時用のみに使用する捜索用写真付きの利用者名簿（ホーム管理）とマニュアルを作成するなど迅速に対応してくれた。これからも地域の一員として利用者がふくめて地域のイベントにも積極的に参加してほしいと思う。

福祉、経営に知見のある人より

高齢分野など過去に何度もこのような会議に参加させていただいていますが、ここまで活発な意見がでてるのははじめてでした。

利用者家族より

家から自立させるために自分の子どもをグループホームに預けるのは正直不安だったが、今ではその不安も解消している。買い物便を使って買い物をするのが楽しみで、外泊した時はいつも報告してくれている。

以上の意見をいただき閉会する。

構成員事業所訪問：令和8年2月26日（木）10：00～13：00

訪問事業所	心の駅下関 三河ホーム・吉母ホーム・永田郷ホーム
参加者	<p>（構成員）5名 地域関係者 K様・福祉、経営に知見のある人 T様・利用者家族 M様 M様 利用者 K様</p> <p>（各事業所案内職員）3名 三河ホーム：管理者 荒川 奈津枝 吉母ホーム：サービス管理責任者 清末 將斗 永田郷ホーム：サービス管理責任者 平楽寺 千賀</p> <p style="text-align: right;">計8名</p>

① 各事業所見学

吉母ホーム→永田郷ホーム→三河ホームの順で各事業所内を案内する。移動については吉母ホームの社用車を利用する。

② 訪問後の構成員の皆様から意見、感想

各事業所訪問後に吉母ホーム 2F 相談スペースにて構成の皆様からの意見、感想をいただく。

利用者より

※移動時間が長かったため、自身の事業所で静養をとりたいとの希望があり訪問後の話し合いには参加されなかったが、「吉母ホームは海が見えるのどかな場所で良いですね」と感想があった。

地域関係者より

永田郷ホームの玄関から食堂に上がっていくスロープが滑りやすい事が気になり危険だと感じた。滑り止めを設置する事で改善できると思ったので改善にむけた取り組みを行なってほしい。また吉母ホームは2つの

事業所にくらべて建物的にひらけた空間でいいなと思った。開所するときは地域になじめるか心配だったが、地域の色々なイベントにも日々参加してもらっている。引き続き参加に協力してほしいと思っている。

福祉、経営に知見のある人より

訪問した全事業所に特色があり、利用される皆さんが自分の好きな場所を選択できるというのは良いなと感じた。

利用者家族より

・自分の子供がお世話になっている事業所はアットホーム感が強く子供に合っていると思った。各事業所がそれぞれの特徴があるのでその特徴に合わせた利用者支援に努めてほしい。集団で生活している場所なので食中毒には十分気を付けていただきたい。

・自分の息子が初めはグループホームには入居したくないと言っていたが、作業所の利用者の影響で突然自分から「入居したい」と希望を言ってきた。はじめは不安だったが今では正月もホームですごしたいと口にするほどになっている。

以上の意見、感想をいただく。

今回3事業所の事業所訪問を開催したが、事業所間の距離があり参加していた利用者の見学中断も発生してしまった。参加された皆様からも「少し移動も多く疲れた」と疲労の声もあった事から来年度は場所を絞っての事業所訪問の実施を提案し皆様からの同意をいただき閉会する。